

『Metaltronica』ライナーノート

Metal + Electronica = Metaltronica?

ヘヴィメタルとエレクトロニカの融合。全世界で2000万枚を売ったメタリカのアルバム『Metallica』を彷彿とさせる、タイトルのない漆黒のジャケット。これが2011年8月10日に届けられたばかりのDJまほうつかい=西島大介のニューアルバム『Metaltronica』。

近年のDJまほうつかいのピアノ教育との出会い。そこから派生したヘヴィメタル研究、ヴィジュアル系研究、X JAPANのコピーバンドの実践。さらにエレクトロニカへの批評意識。『Metaltronica』は、DJまほうつかいの飽くなきフィールドワークが、暗黒の中で渦巻き形を得たような、まさに集大成的であり研究報告的ともいえる内容である。

DJまほうつかいの活動は2005年にまで遡る。『世界の終わりの魔法使い』刊行時、マンガ家・西島大介は自ら書籍の購入特典としてCD-Rを配布。ターンテーブルを使用せず、独力で制作された30分の『世界の終わり mix』。これを100枚限定で配布したことで、DJまほうつかいが誕生した。ちなみに名前の由来は、「ターンテーブルを持っていないため魔法の力でDJする」という設定に基づいたもの。この初めてのDJ mixはターンテーブルやDJソフトウェアではなく、SoundEditという極めてシンプルな波形エディタのみで作られた。mixの構成はダンスを目的としたものではなく、『世界の終わりの魔法使い』の物語世界を追う内容となっている。サンプリングソースは細かくエディットされており、全てを聴き明かすことは不可能だが、テクノ、エレクトロニカ、映画音楽から歌謡曲まで、雑多な音が断片的に聴き取れる。

経堂appelで開催された展覧会「世界の終わりの魔法使い展」において、DJまほうつかいは音楽批評家・佐々木敦を招き、ラップトップオーケストラの「あてぶりふり」で『世界の終わり mix』を演奏／再生。このイベントを通じ、音源がレーベルオーナーの耳に止まり、DJまほうつかいはオリジナル楽曲2曲を追加し、エレクトロニカレーベルCommune Disc傘下の

Zooparkよりファーストアルバムとなる『世界の終わり mix』をリリース。mix CDの販売は違法であるため、『世界の終わりの魔法使い』の主人公サン・フェアリー・アンをあしらった缶バッジを制作し、CDは缶バッジのオマケという扱いでタワーレコードなどでも流通することになった。

2007年には「DJまほうつかいとAENさん」名義で、ベトナム戦争をテーマにした西島大介の長期連載作品『ディエンビエンフー』のサントラ盤を制作。音楽制作の体制を変化させ、慣れない手付きで叩いた生ドラムやコンガ、キーボードや異国のラジオ放送のサンプリング、ニンテンドーDSソフトのスクラッチ音や子供の歌声など、温もりのある生音源をベースに架空の映画音楽を構築。作者自身による『Điện Biên Phủ Sound Track』は、マンガ作品同様、エキゾチックでどこか退廃的、かわいくも破壊的な内容となった。また、ミュージックビデオも制作され、当時『ディエンビエンフー』の掲載誌であった「月刊IKKI」の付録DVDに収録された。

このアルバムと前後して、DJまほうつかいはふいにピアノの個人レッスンに通うようになる。それまでは、ターンテーブルも含め一切の楽器を演奏できないことを前提に、カット・アンド・ペーストによる、サウンドコラージュとして音楽を制作していた。しかし、ピアノレッスンを経て、拙いながらも譜読みや演奏ができるようになり、年に1回の定期発表会などのステージに立つ中で、気がつけば生まれて初めて演奏家の立場で音楽を捉え直すようになっていた。DJまほうつかいは、音楽家としての身体性を手に入れようとしていたのである。

この経験が、DJまほうつかいの音楽性に大きな変化をもたらす。それまでは、リスナーとして愛情を持って聴いていたエレクトロニカや音響派を、文盲の音楽として一刀両断。レーベルオーナーとも決裂し、かつてタワーレコードや書店、UPLINK FACTORY（大谷能生も参加）などで時折ライブ演奏を行っていたアブストラクトなセットも解消。一方、東京ドームでX JAPAN復活ライブの初日「破壊の夜」や、SlipknotやCARCASSらが出演したLOUD PARK 08などを観戦。クラシック音楽の延長としてヘヴィメタルを、音響やジャンルを超えて「外面=ビジュアル」によってのみ定義づけされる音楽としてビジュアル系を捉え直し、イベントへ足しげく通うようになる。

そして運命の日。2008年12月30日、渋谷O-nestで開催されたHEADZ主催のイベント「エクス・ポナイト ポ祭」において突如X JAPANのコピーバンドを「DJまほうつかい無敵BAND」として結成。演奏メンバーは6名。

旗振り係や武器担当を含めると総勢10名になる大所帯。「The Last Song」「X」のたった2曲を披露したこの初ステージにおいて、エレクトロニカや音響派シーンを牽引する批評家・佐々木敦をXジャンプさせ、観客のダイブを誘発し、さらに真空管アンプやモニタースピーカーを破壊して主催者に金銭的な迷惑をかけ、ライブハウスから出入禁止を受けるなど、暴れん坊としてのヴィジュアル系マナーを完璧に実践した。

この日、会場で秘かに販売されたのが『Metaltronica e.p.』というCD-R。バンドとは別にDJまほうつかいが個人で制作し、自ら手焼きしてブリクラのシールを貼ったCD-Rはこの日たった7枚しか売れなかった。しかし、この時点で既に「エレクトロニカの音響設計でヘヴィメタルの音楽力学を再現する」という「Metaltronica」の音楽性は完成。TR-808の軽いドラムパターンがツーバスを踏みまくり、チープなシンセサイザーによってギターリフが再現される曲名のない4曲が、「Metaltronica」のスタートだった。

このライブを経て2009年3月4日、DJまほうつかいは、“時のバンド” 相対性理論から召還され「相対性理論 presents 実践Ⅲ」に出演（他出演者は栗コーダーカルテット）。二度目のステージとなった代官山UNITではたった30分の出演ながら、先日の「ポ祭」ライブのフィルム上映とNapalm Deathの世界最短ナンバー「You Suffer」のカバー、さらに相対性理論のコピーバンドとして「おはようオーバーツ」をカバーし、最終的にXジャンプへ繋げるという離れ業をやったのけた。

また同年9月、マンガ家・鈴木志保へ捧げるトリビュートアルバム『薔薇のかたちのシ イメージサウンドトラック』に参加し、「All those moments will be lost in time」という曲を提供。ここでは打ち込みによるMetaltronicaではなく、初めてピアノソロ曲を譜面で作曲した。映画『ブレードランナー』よりレプリカントの英文の台詞を引用し、ピアノの演奏とともに朗読するというYOSHIKI的なアプローチを試みている。

2010年5月には、ファーストアルバム『世界の終わり mix』が再びCommune Discよりデザイナー新デジパック仕様として、ファッションブランドGalaxxy限定で先行発売される。同時期に西島は同ブランドとのコラボレーションにより、展覧会「世界の終わりのgalaxxy」を開催し、合わせて都内4ヶ所でレコ発ツアーとしてライブ演奏を敢行。DJまほうつかいが、ターンテーブルが備えつけられたDJブース内で演奏をするのは（実際にターンテーブルを使用したかどうかはさておき）この時が初めてだった。DJプレイの果てに誕生日ケーキが飛び出したり、女の子のXジャンプが3つの

X (xxx) を補完し宇宙 (galaxxy) を誕生させたりと、無秩序に見えて実はコンセプト的な内容。特に渋谷 TRUMP ROOMでのDJは大盛況だった。六本木SuperDeluxeではCDJの針が飛ぶというあり得ない事象が発生するも、その場にあった生ピアノの演奏で事なきを得た。追っかけバンギャルも発生し、つかの間のバンド気分を味わう。

同時期に、シークレットイベントとして秘かに開催されたDE DE MOUSEとの共演では、映画『ターミネーター』のテーマ曲のMetaltronica版カバーとDE DE MOUSE「my favorite swing」のMetaltronicaリミックスを披露。蓮沼執太らによるPodcast番組「windandwindows」出演時には、「DJまほうつかいバンド」のvo.を務めたdetune.のリミックス曲を発表。この頃からDJまほうつかいは秘かに音源を作成、発表を始める。秘かに制作され放置されている「Metaltronica」音源は膨大な数になるという。

2011年1月11日には渋谷O-westで開催された「Out One Disc presents 皇帝のいない1月」に出演（他出演者はワッツタワーズ、湯浅湾など）。「DJまほうつかいバンド」の初ライブで出入り禁止になって以来、久しぶりにO-系列のライブハウスの敷居をまたぐもDJは滑り気味。DJまほうつかいはこの頃より、暴れん坊DJの限界を感じ始めていたという。

同年2月26日には、恵比寿LIQUIDROOM 2階において、東浩紀編著「思想地図β」刊行イベント「そうかん！」に出演（他出演者は渋谷慶一郎、AZUMA HITOMI）。召喚魔法と称して、女性ヴォーカルをDJ中に招き入れることに成功する。

さらに3月8日には、新宿PIT INNにて西島がアルバムジャケットを手がけたフリースジャズ・トリオblacksheep（吉田隆一、スガダイロー、後藤篤）『②』レコ発ライブに出演。ライブハウスにCDJがないという、ジャズならではの洗礼に戸惑いつつも、フリースジャズの聖地PIT INNでキース・ジャレットとYOSHIKIを交互にかけるという挑発的なパフォーマンスを披露。途中なぜか羊と執事のコスプレ軍団が登場し、寸劇しながら「ENDLESS RAIN」を歌うというフリースジャズらしからぬ愉快的なライブとなった。この頃よりDJまほうつかいの衣装は、魔法使いの帽子から、黒羊の耳というシンプルなものになる。

また別の日、一観客として訪れたフリースジャズのクラブ・西荻窪velvetsunでは、セッションに飛び入り参加。フリースジャズ・ピアニスト、“ハマの狂鍵”ことスガダイローの目の前で、店のピアノの鍵盤にお酒をこぼす

という大失態を演じた。DJまほうつかいは「殺されると思った」と語る。

震災、そして原発事故を挟んだ6月26日には「電刃2011」に出演（他出演者はDE DE MOUSE、鎮座DOPENESSほか）。「全ての文化がオルタナティブであるための青春群像」というテーマに共鳴すると同時に、電刃の「電」に反対するというアンビバレントなDJを披露し、最後にXをかけて終わるいつもの暴れん坊DJはここで封印。またこの日の会場では、アルバム『Metaltronica』が超・先行発売された。

7月8日にはJoseph Nothing Orchestraのリミックスアルバム『super earth remixes』に参加し、「Izak-Delporte DJまほうつかい remix」を提供。world's end girlfriendによるレーベル「Virgin Babylon」とネットレーベル「分解系」の共同リリースであり、ototoyからも配信。初のオフィシャル・リミックス仕事となった。魑魅魍魎の新旧エレクトロニカ勢がひしめきあうなか、のほほんとした「Metaltronica」節全開の内容。この頃よりDJまほうつかいはネットレーベル運営に興味を持ち始める。

7月12日には、初めて東京以外の土地へ遠征。京都の伝統的なクラブ／ライブハウスであるMetroにて開催されたSOUNDRoomとpage of documentとの共同イベントにおいて、DJまほうつかいは生まれて初めてピアノ演奏によるストイックなセットを披露。前述した「All those moments will be lost in time」を含む、譜面に記されたばかりのまだ曲タイトルもない計3曲を演奏した。サポートはsuzukiiiiiiiiii × youpy。実に4年ぶりとなるエレクトロニカとの邂逅だった。

同時期、ネットレーベル「まほうつかいレコード」を突如立ち上げる。第1回リリースは急死したX JAPANのメンバーTAIJIの追悼盤。過去のDJ mix音源の配信だったが、リリースするや否や速攻で再配信、そしてレーベルごと廃盤という急展開。わずか5時間のネットレーベル運営だった。

8月6日には原宿VACANTにて、蓮沼執太を中心とする「windandwindows」2周年イベントに出演（他出演者は平賀さち枝ほか）。ギターにdetune.の石塚周太、電子音にsuzukiiiiiiiiii × youpy、さらに朗読として「windandwindows」のMC藤谷香子（快快）らを迎えた特別編成「DJまほうつかいチーム（西島大介たち）」での演奏。『Metaltronica』へのリミックス提供への恩返しとして、「windandwindows2」という新曲を披露した。

翌日8月7日には、初めての主催イベントとなる「DJまほうつかい

5

presents ワルプルギスの夜」を池尻大橋2.5Dで開催。『Metaltronica』へのリミックス提供者から芳川よしの、蓮沼執太、Joseph Nothing、サポートにsuzukiiiiiiiiii × youpy、さらに映像では分解系主宰のYakoが出演。DJまほうつかい『Metaltronica』を中心軸とした不思議な縁が結ばれた一夜となった。

と、このような状況下で長い時間をかけてコツコツと作られたのが、アルバム『Metaltronica』に収録された全8曲。CD盤をCommune Discから、配信をototoyから、さらにセルフライナーノートを赤身レコーズからと、3種のレーベルからほぼ同時リリースとなっている。イメージを喚起する曲名もなく「Metaltronica #1~5」とナンバリングされただけのオリジナル5曲と、芳川よしの、Joseph Nothing、蓮沼執太によるリミックス3曲は、DJまほうつかいが吸収し、理論化し、実践した「Metaltronica」のコンセプトに基づく、比類なきサウンドである。これ以上のライナーノートは不要。目を閉じて漆黒の闇の中、お聴きあれ。

ところで最近のDJまほうつかいはヘヴィメタル研究に一区切りつけ、ピアノソロアルバムの制作準備中だという。電子ピアノを作業部屋に据え置き、仕事もせずに鍵盤と譜面に向かっているらしい。マンガ家としてはとても心配になる状況だが、これからもDJまほうつかいの活動に期待しよう。

2011年8月10日 DJまほうつかい（西島大介）



DJまほうつかい『世界の終わり mix』
(ZOO PARK 1 2005年／再発：CD 5 2011年)



DJまほうつかい & AENさん『Điện Biên Phủ Sound Track』
(CD 3 2007年)



DJまほうつかい『Metaltronica』(CD 7 2011年)
